

北海道浮魚ニュース

令和元（2019）年度 15 号

2019 年 8 月 26 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎イカ類南下期資源調査結果

- ・スルメイカの分布密度は低く、魚体は昨年より小さい。
- ・釧路沖以東にアカイカの分布がみられた。

- ・調査期間：2019 年 8 月 18～23 日
- ・調査海域：道東太平洋沿岸
- ・調査船：北辰丸（255 トン、イカ釣機 5 台装備）
- ・調査方法：イカ釣機による 1 晩 2 地点の夜間釣獲調査、CTD による海洋観測

1. 水温分布（図 1）

調査点 10 点の 2019 年の表面水温は 14.7～19.1℃（前年：12.1～17.8℃）の範囲にあり、全ての調査点で昨年を上回りました。50m 深の水温は 3.0～12.9℃（前年：5.7～10.9℃）の範囲にあり、10 点中 7 点で前年を下回りました。前年に比べ、表面と 50m 深の水温差が大きく、地点間の水温差も大きくなっていました。

2. スルメイカの分布密度

全 10 点で釣獲調査を実施し、うち 8 点でスルメイカの漁獲がみられました（図 1）。最も分布密度が高かったのは広尾沖 St. 2 で CPUE（イカ釣機 1 台 1 時間あたり漁獲尾数）は 1.9、次いで襟裳岬東 St. 1 で CPUE は 0.8 でした。一方、釧路沖 St. 5 及び昆布森沖 St. 6 では漁獲がみられませんでした。全調査点の平均 CPUE は 0.45 で昨年（2.62）及び 2001 年以降の平均（7.40）を下回り、2001 年以降の調査では 3 番目に低い値となりました（図 2）。

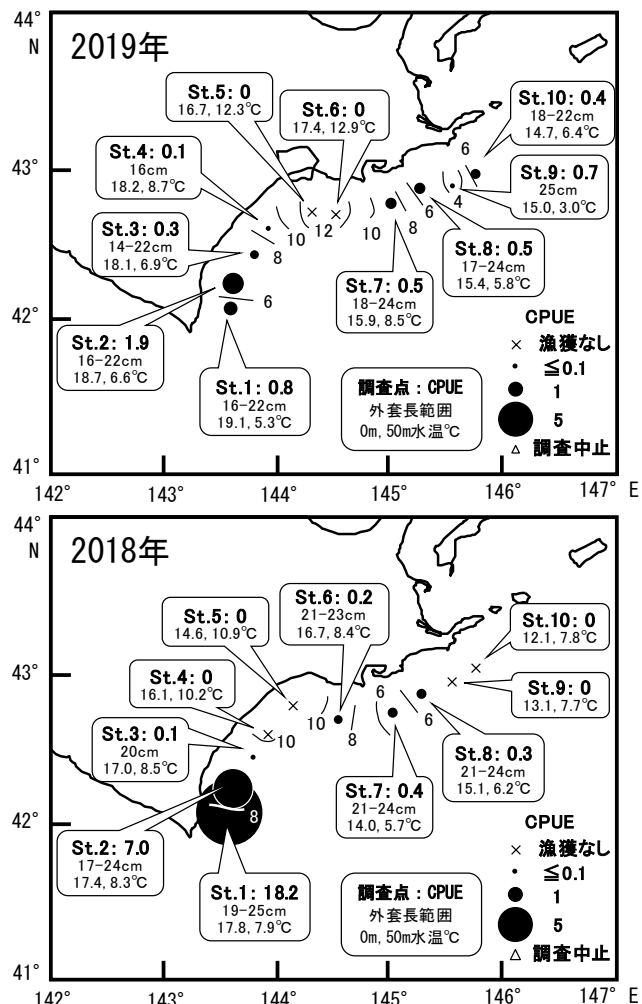


図 1 2019 年（上）と 2018 年（下）の漁獲調査結果と水温。●は漁獲調査点を示し大きさは CPUE(イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数)を表す。等温線は 50m 深の水温分布

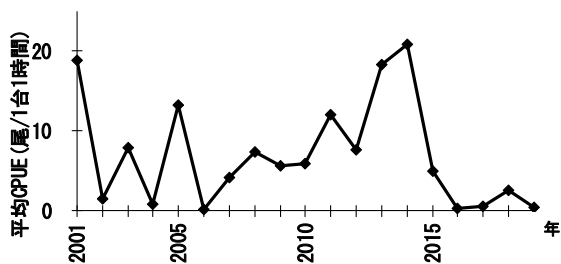


図2 8月道東太平洋におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化

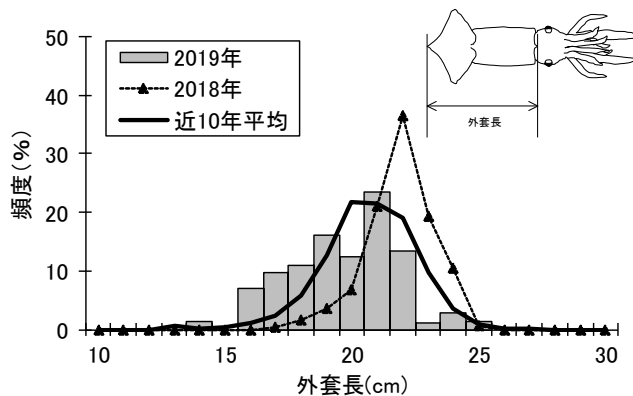


図3 8月道東太平洋におけるスルメイカの体長組成

3. スルメイカの大きさ

全漁獲調査点のスルメイカの外套長(胴長)は14～25cm(昨年17～25cm)の範囲にありました(図1)。海域全体の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は21cm(昨年22cm)にあり、魚体サイズは全体的に昨年より小型となっていました(図3)。

4. アカイカ

全漁獲調査点10点のうち、釧路沖 St. 5 から根室沖 St. 10 にかけての6調査点でアカイカの漁獲が計97尾(昨年6尾)みられました。最も分布密度が高かったのは厚岸沖 St. 7 (65尾、CPUE3.6)、次いで浜中沖 St. 8 (18尾、CPUE: 1.3)でした。全10調査点の平均CPUEは0.97で昨年の値(0.12)及び今年のスルメイカの平均CPUE(0.45)を上回りました。外套長は23～30cmの範囲にあり、海域全体の外套長のモードは25cmにありました(図4)。

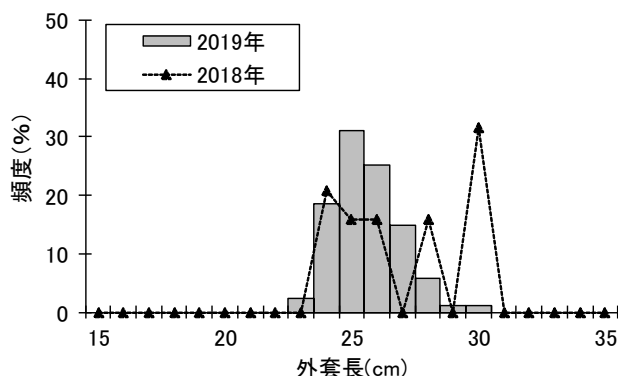


図3 2018年及び2019年8月道東太平洋におけるアカイカの体長組成

(釧路水産試験場調査研究部 TEL: 0154-23-6222, FAX: 0154-23-6225)